

第2回 笠松町第5次総合計画審議会 議事概要

日 時	平成22年9月10日（金） 14:00～15:50
場 所	笠松町役場 4階大会議室
出席の委員	岩井会長 伊藤委員 岩田委員 加藤(知)委員 加藤(大)委員 久納委員 志智委員 杉山委員 高木委員 勅使川原委員 服部委員 松波委員 山田委員 船橋委員 安田委員 林委員 (以上16名)
欠席の委員	道家副会長 松原委員 名和委員 (以上 3名)

議事概要

① 会長あいさつ

今回は「まちづくりの理念」や「目指す将来像」を明らかにし、まちづくりの指針となる「基本構想」についての審議であり、積極的なご意見をお願いしたい。

② 町長あいさつ

これまで、「生活文化都市」を目指してまちづくりを進めてきた。住民意識調査によると世代間で思いの違いはあるものの、その思いは「安全で安心な住みやすいまち」が根幹となっている。それらを踏まえ、ご審議いただきたい。

③ 審議（検討・質疑応答等）

[まちづくりの理念について]

- 理念や将来像は長いスパンで考えるべきで、計画の度に大きく変えるものではない。
- これまで経験したことのない社会環境の変化として、人口減少社会を記載すべき。
- 人間関係が薄らいできており、人間関係の良い住みよいまちづくりを目指すべき。
→ 基本方向以降のところでご議論いただく。
- 「個性」を履き違えると「調和」を崩すことになる。
→ 個性と調和という言葉だけを捉えると相反するイメージだが、個性を活かすという意味であり、ここで言う個性は、人・自然・文化といったまちの持つ資源を指しており、それを活かしながら調和をし、まちづくりに活かすという意味で提案している。
- 「他の計画」との整合性が大切である。
- 地球環境のことに触れてもよい。
- 調和は良い言葉だが、理解し難い言葉でもある。
- 経験を個性と言うなら、宝や財産と言った方がよい。
→ 理念の前段には、理念に関する考え方をコメントとして掲載する。
コメントの中に本日の協議内容及び、「個性」と「調和」についての説明を記載していく。

協議結果	説明文を事務局で再検討することとし、事務局案どおり、「個性」を活かし「調和」を大切にしたまちづくりとする。
------	---

[まちづくりの将来像について]

- サブタイトルを入れるか否かでメインタイトルが変わってくる。
- 「生活文化都市」から少し替えてもいい。
- 「生活文化都市」よりも「創造文化都市」が流行りである。
- サブタイトルはここで決めなければならない訳ではなく、施策の中で必要となれば入れればよい。
- 「ひと」「まち」「自然」と3つの言葉が並んでいると広ががある。

協議結果	メインタイトルを「清流木曾川に抱かれたひと・まち・自然(が)輝く創造文化都市」とし、サブタイトルについては、これからの施策展開の中で必要となれば入れることとする。
------	---

